

科目名	情報社会論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	小宮山 智志		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-430016		経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること		
授業の目的	<p>消費社会の最たるもの（のひとつ）が「情報化社会」です。ユニクロやマクドナルドやルイヴィトンといったものは、「情報化社会」と一見関係ないようですが、大変、密接な関連があります。この「情報化社会」は、世界にとって、大きな光（経済的効果）を与えています。</p> <p>しかし「情報化社会」は、大きな光を放つために、影（私たちの生活を脅かすマイナスの効果）も作ります。環境問題を引き起こすだけでなく、私たちの労働環境にも大きく影を落としています。</p> <p>いままでの情報化社会を乗り越え、影を作らず、光を失わない“情報化社会”の条件を考え、さらにそのアイデアを具体的に我々の社会、暮らしに、そして大学の授業にも活かすことを考えます（皆さんの関心や理解に応じて、各回の内容・回数に変更する場合があります）。</p>				
学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な理論を具体的な事例にあてはめて考える力を養い（1～9回の授業内課題・最終レポート）、自分で新しい理論を作るといった発想を身につけてください（10～15回の授業内課題・最終レポート）。卒業してから、大学時代にはなかった新しい理論・考え方が出てくることでしょう。新しい理論が出てきても、現場で応用できる力、アレンジする力、そして自分で理論を構築する能力を身につけてください。 ・抽象的な事柄を、抽象的な言葉を使わずに具体的な事例を用いて、“自分”を伝えることを身につけ、就職や進学等の面接で、活用してください。 ・主体的に楽しく仕事する能力を身につけてください。 				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	本講義の射程とスケジュール等について：行動科学で学んだ社会的ジレンマが、現実の社会現象でどのように深刻な問題を引き起こしているか、考えます。毎時間、授業内課題を行い、全員で共有します。多様な価値観・発想に触れ、さらに新しいアイデアを考える、オリジナリティがますます求められるAI時代に必要な能力を身につけます。
第2回	情報化/消費社会の展開(1)：情報化社会の成立について、マクドナルドの事例から考えていきます。
第3回	情報化/消費社会の展開(2)：情報化社会の意外な効用、経済における需要の創出効果について、まとめます。

第4回	環境の臨界/資源の臨界(1)：情報化社会によって、私たちが、どのように変化してきたのかを昭和30年ごろからの生活の変化から考察します。
第5回	環境の臨界/資源の臨界(2)：情報化社会によって、私たちが失ったものについて、考察します。
第6回	南の貧困/北の貧困(1)：第二章で学んだ情報化社会の影響を具体的に考えていきます。
第7回	南の貧困/北の貧困(2)：ここまでの情報化社会の需要創出効果のプラスの面とマイナスの面を振り返り、次の社会の在り方を考えます。
第8回	情報化/消費化社会の転回(1)：次の社会の在り方を映像資料をもとに、具体的に検討します。
第9回	情報化/消費化社会の転回(2)：20世紀の「情報化社会」とは異なる21世紀の新しい「情報化社会」の実現に向けての条件をまとめます。
第10回	楽しみの社会学～新しい情報化社会に向けて私たちだけができること(1)：“情報化社会”に向けてできることを模索します。
第11回	楽しみの社会学～新しい情報化社会に向けて私たちだけができること(2)：各自のアイデアを共有し、アイデアをブラッシュアップします。
第12回	楽しみの社会学～新しい情報化社会に向けて私たちだけができること(3)：私たちが何を行っていくのか、具体的に考えていきます。創発・ワークショップといった具体的な方法について学びます。
第13回	最終レポートについてのグループワーク(1)：最終レポートについて確認し、内容を検討します。

第14回	最終レポートについてのグループワーク(2)：各自の最終レポート案を題材に、課題を行います。お互いの発想・価値観を参考に、新しい社会を構想する力を高めてください。
第15回	まとめ
第16回	最終レポートの提出

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：テキストの該当箇所を読むとともに、予告された課題について考えてきてください。
【復習】時間・内容	約2時間：もし振り返りアンケートで内容を確認した時に、わからないことがあったら、授業中のノートを見返してください。また必要に応じてノートを書き足して完成させてください。理解できていないところがあったら振り返りアンケートにおいて質問してください。

成績評価	
評価基準・方法	授業内課題（35%）：自分の頭（知識理解・思考判断）と他人の頭をともに活用することを学びます（協調指導力・発表表現・関心意欲）。授業内課題は全員で共有し、他者のアイデア・発想・多様な価値観に触れることで、さらに新たな着想を得ることを、毎回、体験していきます（その他：オリジナリティ）。 最終レポート（65%）：オリジナリティ（その他）と論理的思考力（知識理解・思考判断）が問われます。授業内で他者からコメントを得られる機会を設けます（協調指導力・発表表現）。テーマ選びに関心意欲が関連します。
フィードバック方法	授業内課題は、全員で参考になったものの投票（ビュアレビュー）を行います。上位の課題または私が選んだ課題についてのコメントを授業中に行います。最終レポートに関しては、事前に評価基準をお示しします。したがって上記の成績評価割合、授業内課題の上位との比較から、自分のレポートが評価基準のどの程度のレベルに達したのか、わかります。さらに全体のコメントをポータルで送信すると共に、自分のレポートについてコメントが欲しい方には、個別に対応します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	参考文献：見田宗介 1996 『現代社会の理論～情報化・消費社会の現在と未来～』岩波新書（465） 講義と並行してこの文献を読むことで「抽象的な理論を具体的な事例にあてはめて考える力」が効果的に身に付きます。
受講上の留意点等	1. 公欠の場合、希望者には個別に補習を行います。欠席した分のトレーニングを補うことが出来ます。 2. 授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。 3. 授業中に、関係のないことを行っている、盗用・剽窃を行うなどの不正・不法行為が認められた場合、直ちに以後の出席を禁止します。
JABEE	